

明治の教育

IV



III-3-4

6 『論語』 名古屋市教育委員会 所蔵

現在でも中学校や高校で書いている『論語』は中国の孔子（紀元前551年～紀元前479年）の言葉を集めたものです。江戸時代には正に武士の身分の子供たちが、蘭館の前で一人ずつ讀みさせられたりしていました。この資料は有名な「子曰く 学びて時に習う」との一節です。

III-3-4

明治時代の教育

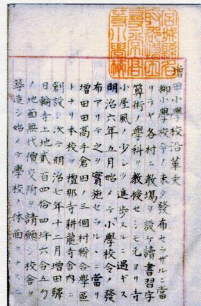
明治5年に太政官から、「必ず邑に不学の戸なく、家に不学の人なからしめん事を期す」（意味は「村で学ばない家、家に学校に行かない人がないことを期待します」というおふれが出され、翌年に学制という法律が出されました。これによって日本の学校が始まりますが、当時は授業料があり、教科書は自分で買わなくてはならない時代で、ほとんどの人からみると迷惑な話でした。しかし、明治の最後の方になると授業料が無料になり、ほとんどの子供が学校に行くことができるようになりました。

IV

7 沿革誌(史)

各学校には「沿革誌」(沿革史)というものが残されています。沿革誌には各学校ができたいきさつが書かれています。

IV-1



IV-1-1

増田小学校

IV-1-1